

MDPRO医療機器産業研究会 第4回開催報告・年度総括

医療機器政策調査研究所 主任研究員 木下 裕美子

1. はじめに

医機連医療機器政策調査研究所(MDPRO)では、2024年度より「MDPRO医療機器産業研究会」(以下、研究会)を開催しております。今年度はMDPROリサーチ公開のタイミングに合わせ、9月¹⁾、11月²⁾、2月の年3回の開催としました。

今回は、2026年2月に開催した第4回研究会および2025年度の総括について報告します。



2. 第4回開催概要

【日 時】 2026年2月16日(月) 15:00 ~ 17:00

【開催場所】 医機連会議室 room Aおよびオンライン併用

【研究会テーマ】 統計調査情報を活用した、医療機器産業の動向分析

【演題名・演者】

(1) 薬事工業生産動態統計から見えるもの：最新年報データによる
医療機器産業動向と統計活用の視点 MDPRO 主任研究員 林 奈央

(2) 業界団体における統計調査の取り組み

① 日本医療機器テクノロジー協会(MTJAPAN)

統計委員会 委員長 小泉 利康 様(テルモ株式会社)

② 日本画像医療システム工業会(JIRA)

調査・研究委員会 委員長 板谷 英彦 様(富士フイルム株式会社)

【参加者】 医機連会員54名、医機連事務局4名、MDPRO客員研究員等6名 計64名

3. 第4回講演内容(概要)

MDPROの久芳所長による本研究会の趣旨説明後、林主任研究員が、薬事工業生産動態統計に基づく医療機器産業の統計調査や動向分析について発表しました。続いて、各団体内での自主統計調査の取り組みについて、小泉様および板谷様より講演いただき、3名の演者と参加者との全体意見交換が行われました。

3.1. 林主任研究員 発表

「薬事工業生産動態統計から見えるもの：最新年報データによる医療機器産業動向と統計活用の視点」(医機連ジャーナル第132号にて公開済)³⁾などを基にしたスライド資料と共に発表が行われました。

国内の公的統計データと海外の調査の違いについての説明や、医療機器の分類別出荷高、国別取引傾向、直近6年(2019～2024年)の業界動向について分析結果が報告されました。医療機器の分類別出荷高では、上位分類が特に伸びていること、国別分析では、米国が輸出入の最大取引国であることなどが確認され、逆輸入は、アジア州の国が多いことも示されました。医療機器産業の動向として、国内市場は約4%の成長率であり、輸出では診断系、輸入では治療系の製品が主力であることも述べられました。一方、薬事工業生産動態統計調査の公表データによる分析の限界や分類の工夫に関する言及もあり、海外製造後に日本を経由せず海外出荷される製品が集計に含まれないことの指摘や、より使いやすいデータ収集の必要性が強調されました。

発表後の質疑応答では、参加者より統計上の特異値に対するデータ利用と精査問合せ等のご意見を頂き、厚生労働省への問合せやMDPRO提供データの活用などが議論されました。



3.2. 小泉様 ご講演

MTJAPANの小泉様からは、「2025年度 MTJAPAN統計資料について」と題し、統計委員会の取り組みとして、会員企業266社に対するアンケートの実施状況や、収集データを基にした国内出荷額、輸出額などの結果についてご説明いただきました。



第三者機関に匿名での集計を委託していることや、調査の年間スケジュール、集計データは14の製品分類に基づいて整理されていることなど、集計方法に関する実務的な話題をはじめ、医療機器市場全体4.5兆円程度のうち、MTJAPANの範疇の製品が約2兆円を占めていること、国内生産品と輸入品の比率、事業規模別の売上、特定保険医療材料の推移等についても取り上げられ、ご見解が示されました。

3.3. 板谷様 ご講演

JIRAの板谷様からは、「日本画像医療システム工業会(JIRA)調査・研究委員会の活動について」と題し、1970年から約半世紀にわたる歴史や、市場統計と導入実態調査の活動について、画像医療システムの売上統計、受注統計、導入実態調査の実施内容や連続性の確保などを中心にご説明いただきました。



第3期医療機器基本計画策定に向けた討議でも使用されている、代表的7機種(X線CT装置、MRI装置等)の平均使用期間データのご紹介では、「8.5年」であった1988年の第1回調査から延び続け、直近の第22回では「12.9年」に達していることを受けて、日常の点検や定期的な保守管理がより重要な状況になっていることが示されました。

3.4. 参加者との意見交換

全体意見交換では、自主統計調査の回答率とデータ収集の課題などについて、演者と参加者で活発な議論が行われました。回答率100%を達成するためのご苦勞や具体的なフォローアップの方法、工夫など、各団体の詳細な事例についても、担当者としてのご経験や視点に基づいて共有されました。



3.5. 開催後アンケートより

参加者の皆様より、貴重なフィードバックを沢山頂くこともできました。

以下に、第4回のご感想の一部を紹介いたします。

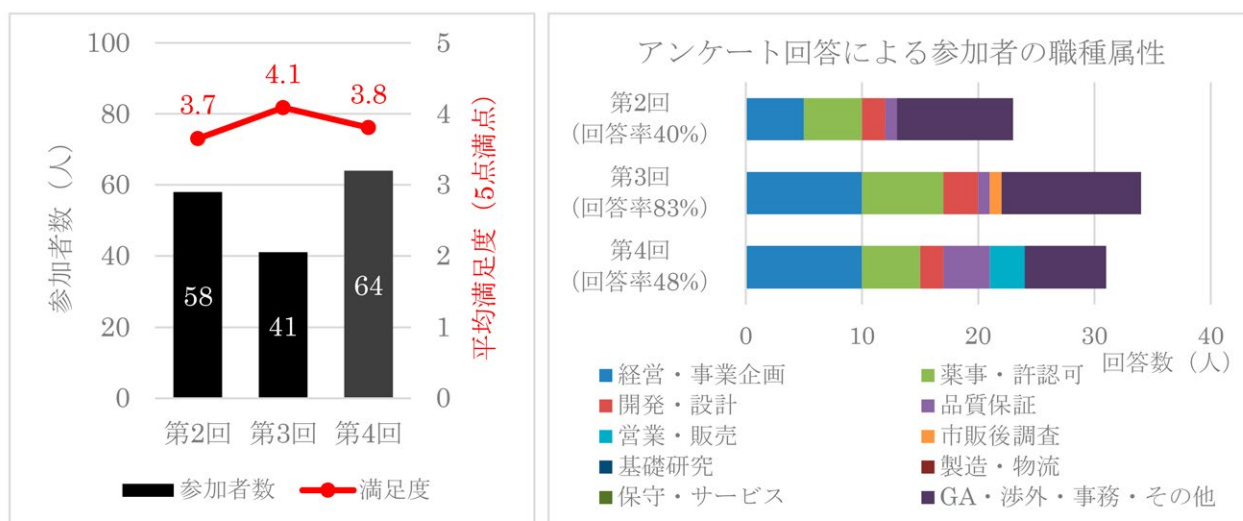
- ・薬事工業生産動態統計のデータの利用における注意点およびデータ解析により見えてくる市場動向などの情報について理解が進んだ。
- ・統計調査というスポットが当たりにくい分野でも有用な知見が得られた。
- ・国レベルのマクロな統計分析と、業種別の切り口の異なる細かな統計、双方理解出来た。
- ・業界全体(マクロ)と工業会(ミクロ)の双方の視点があり、非常に良かった。
- ・データ利活用については行政も注力しているが、活用例や、どのような製品・エビデンス構築と相性がいいか、などの分析・見解も今後期待している。

頂戴したご意見は、来年度の研究会開催などMDPRO活動の参考とさせていただきます。

4. 2025年度の総括

今年度の研究会は、医機連会員内で計3回の開催としましたが、総計163名(複数回参加含)にご参加いただくことができました。各回とも回答者の平均満足度は、約4ポイントであり、第3回以降、主任研究員発表にゲスト講演を組み合わせたことも好評でした。会員団体よりゲスト講演いただいた第4回では、過去最多の参加者数となり、参加申込数も100名に迫りました。

参加者の職種属性は、各回とも「経営・事業企画」と「薬事・許認可」が最多でした。第4回では、「品質保証」と「営業・販売」の方が増えたようでしたが、年間を通して、「基礎研究」「製造・物流」「保守・サービス」の方の参加は確認できず(少なくともアンケート回答においては0名)、研究会企画としてテーマ設定等の難しさが感じられました。



研究会各回テーマ

第2回：「医療機器産業における定量的分析に基づく主要国の比較」(2025年9月1日開催)¹⁾

第3回：「医療機器スタートアップを取り巻く状況」(2025年11月17日開催)²⁾

第4回：「統計調査情報を活用した、医療機器産業の動向分析」(2026年2月16日開催)

参加者の皆様ならびに、ご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、MDPROでは、今後も産業界や各会員団体、各企業の皆様のお役に立てるよう努めてまいります。

【参考資料、文献】(URLは2026年3月18日時点)

- 1) 林 奈央：第2回 MDPRO医療機器産業研究会 開催報告．医機連ジャーナル, 131 : 56-8, 2025.
<https://www.jfmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2025/10/journal131%E2%98%85Publish.pdf>
<https://www.jfmda.gr.jp/mdpro/presentation/>
- 2) 浅岡 延好：第3回 MDPRO医療機器産業研究会 開催報告．医機連ジャーナル, 132 : 83-6, 2026.
<https://www.jfmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2026/02/journal132%E2%98%85Publish3.pdf>
<https://www.jfmda.gr.jp/mdpro/presentation/>
- 3) 林 奈央：薬事工業生産動態統計から見えるもの：最新年報データによる医療機器産業動向と統計活用の視点．医機連ジャーナル, 132 : 57-82, 2026.
https://www.jfmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2026/01/Journal132_MDPROResearch.pdf
<https://www.jfmda.gr.jp/wp/wp-content/uploads/2026/02/journal132%E2%98%85Publish3.pdf>